

11月の前進を組織拡大へ

全学連(織田陽介委員長) 書記局通信

2010年11月16日

No 7

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

APEC粉碎!!

全学連、横浜で奮闘!

【1】11・13～14 A P E C 粉碎闘争うち抜く!

織田陽介・全学連委員長の集会基調 (13日の集会にて)

現在の情勢の特徴を三点ほどあげて、11月の闘いが切り開いた地平を断固確認し、本日のA P E C 粉碎闘争の意義をはっきりさせます。

第一に、日々深化していく帝国主義支配体制の危機です。韓国で先日G 20が行われたわけですが、空港には「危機の狭間で成長を分け合おう」というスローガンが掲げられていま

した。帝国主義同士が危機の中で成長を分け合おうじゃないか、と。あたかも何か妥協点のある会議かのように言われていますけれども、G 20が終わってみて、そんなものは粉々に粉碎されているわけです。その中で、ますます戦争への危機が深まっています。本日の日米首脳会談では、「尖閣諸島奪還作戦」ということで日米軍事演習がG Oされようとし

ています。

そして、このスローガンにある「資本家と労働者が成長を分け合う」とか「労働者同士で分け合おう」とか、そういうものも絶対に不可能です。資本家と労働者が何か分け合うなんてもうできないし、正規職と非正規職が賃金を分け合えとかいうイデオロギーをわれわれは断固うち破り、この資本家そのものを打倒して、労働者・学生が主人公のわれわれの社会をつくっていきましょう!

今回のA P E Cで、われわれ労働者・学生・農民に対する





さらなる攻撃(核心的には労働運動や三里塚闘争破壊攻撃)が行われようとしていますけれども、われわれにとってはこれは断固として粉碎対象である。G20に対しては、韓国の労働者の怒りが爆発して11日に1万人の大デモが叩きつけられました。そして今度は、われわれがオバマや菅ら帝国主義者どもを日本で徹底的に弾劾してやろう!

第二に、私たち11月集会派は、11・7集会を5900人結集の大勝利でかちとってこの場にいるということです。その中でも、「4・9政治和解」に示される労働運動解体攻撃との対決が決定的です。屈服したあらゆる既成勢力が階級的労働運動に攻撃をしかけてくる。これをうち破るかたちで私たちが5900人で登場した。私たちがこの勝利に確信を持つこと、これが非常に大事です。この間、各職場・キャンパスで闘って「正しいことは言っているけど、あなたたちは少数じゃないか」、こういうこととずーっと闘ってきたと思います。しかし5900人の私たちの登場は、そういう仲間を全員獲得するような地平を切り開いているんです。「4・9」の事態の中で、労働運動がいったんはすべて消滅させられるような危機の中で私たちは闘ってきました。民主党政権から自民党、もしくはみんなの党、社民党、共産党、カクマルに至るまであらゆる勢力がすべてわれわれに敵対してくる、こういう関係の中で私たちは闘って闘って5900を切り開いてきました。

現在の大衆の「閉塞感」、これが何を意味しているのか。それは攻撃が激しいからではなくて、選択肢がないということですよね。「どこの党に入れても同じじゃないか」「どこの組合に行っても同じじゃないか」、こういう閉塞感をファシスト・田母神がすべて吸収して登場しようと画策している。しかし、11月6日の田母神・日の丸デモは大きく破産しました。われわれのみが、あらゆる怒りをを糾合する「選択肢」として登場することができた。ここに現在の階級情勢の核心があります。

街頭では「菅を打倒してどうするんだ?」「その後一体誰がやるの?」、こういう声が渦巻いています。私たちはそれに一つの回答を出しました。「政治家が社会を変えるんじゃない」「俺たちの手で変えるんだ」と。「新しい運動をここからつくろう!」、こういうかたちで11月7日に私たちが歴史的

に登場したということが最大の勝利です。だからこそ、あらゆる反動をぶち破ったこの5900に警察が弾圧をしかけてきた。ちょっとでも傷をつけようとしている。でも3日しかもたなかった(9日に不起訴釈放)。

国家権力も含む全反動を突破して私たちはここにいます。私たちはもう「少数派」じゃない。職場やキャンパスでの「唯一勢力=責任勢力」としてこれから登場していこう。それが国鉄全国運動です。職場やキャンパスでは1~2人かもしれない。だけど、「これだけのどっかい運動をやっている国鉄全国運動が自分たちの運動なんだ」と、これから堂々と「多数派」として登場することが総括の核心です。今日のデモも、そういう勢力として登場していこう。

第三に、歴史選択が「政治潮流の選択」として提起される時代に入りました。崩壊する体制内既成勢力、そこから田母神という極右ファシスト勢力が登場して破産しています。それは路線的敗北であり、私たちの勝利性は正しい路線にあります。

一つは、「戦争と大失業」もしくは新自由主義に真っ向から対決して闘ってきたことです。大恐慌の現実の中で起きていることは、人間が人間を支配し搾取するというあり方の根本的な破産です。儲けるためにモノをつくっても売れない、じゃあどうするんだ、今度はモノを全部破壊する、人間を破壊する。殺すことをもって儲けるために資本が動いています。この窮極が戦争です。そして、何も生み出さずに儲ける金融、これがバブルをつくって大崩壊している現実。さらに、儲けてはならないところで儲ける、教育だ、医療だ、そういうかたちで資本が社会を根本から崩壊させている。「モノが売れないんだったら無理やり売ろう」と、農業すらも破壊している。こういう中で、世界的に労働者・学生の怒りの声が高まって根本的な変革のときを迎えています。人間が人間を搾取するとあり方の破産に、われわれは今こそ断を下さなくちゃいけない。

田母神がこの怒りを愛国主義・排外主義でかすめ取ろうとしています。これこそ田母神が破産した最大の根拠です。大恐慌と戦争への怒りをねじまげて、「『日の丸』しか持ちゃいけない、拡声器は持ちゃいけない」、こんなものに求心力があるはずがない。わたしたちが大恐慌下での怒り





と結びつきながら田母神を路線的に吹き飛ばしていること、この勝利性を断固確認しましょう。

いま一つは、国際連帯の地平です。「領土問題」の核心は何ですか？「国益」「国家」を守れという大洪水です。いったい「国益」って何ですか？トヨタやキャノンの製品を売るために農業を全部破壊する、これが「国益」の名の下に行われているわけです。何が「国益」か！こんなものぶっ飛ばせ！今、大失業の中でアメリカも日本も中国もロシアも、あらゆる怒りを全部外にねじまげて戦争に向かわせようとしています。これが「領土問題」の核心です。あらゆる国の体制的崩壊および戦争の危機と、世界的変革の好機が一緒になって大きく進んでいっています。だから私たちは、国際連帯を掲げてこの世界を根本的に変革する立場に立とう。中国で学生・労働者が感動的な闘いに立ち上がっています。彼女らは、共産党スターリン主義の支配体制を粉砕しようと立ち上がっています。封鎖された大学の門を乗り越えてデモに行った学生が、退学処分になりながら生き方をかけて立ち上がっている。私たちはこの闘いと一つになって今日の闘いをうち抜きたい。

つまり、いま起こっていることは「この新自由主義に立ち向かうのか否か」「戦争賛成か反対か」「国際連帯か愛国主義か」、こういう路線的激突が一つの政治潮流の運動として体现され、「どっちのデモに行くんだ？」と全人民に選択肢として突きつけられる時代に入ったということです。だから今日、田母神や幸福実現党や右翼やカクマルが、カクマルも「中国による釣魚台侵略弾劾！」とデモしていたらいいんで



すけれども、こういうあらゆる潮流が路線を体现して私たちに対して「どの路線を選択するのか」「どの歴史を選択するのか」と歴史選択を問うている。だから今日のデモをきわめて路線的にうち抜こう！

最後に、今日の獲得目標ということを簡単に言うならば、一つは「戦争

と大失業」を進める支配階級への怒りを徹底的に叩きつけよう！二つに、沖縄に基地をつくらうとしている日米首脳会談を粉碎しつくそう！三つに、APEC 厳戒体制というかたちで国家権力が制圧する横浜をわれわれが蹂躪し、奪還し、解放する、そして絶対に弾圧は許さないという立場で貫徹しよう！

斎藤郁真・文化連盟委員長の決意表明 (14日の集会にて)

トゥージェン(闘争)！G20粉砕の訪韓闘争をやり抜いてこの場に立っています。この訪韓闘争が、カンパなど多くの方々の協力で行われたことに感謝します。ありがとうございました。

今、すさまじい情勢が迫っています。たとえば公務員の首切り、民営化、非正規職、年金の削減、教育費・保育費の削減。国によって何が焦点になるかは違いますが、根源は同じです。世界的な経済危機による世界的な緊縮財政政策

が同じ原因です。イギリスやフランス、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、...、世界で行われている闘争内容は同じです。そして、この攻撃を一体で進めているのがG20でありAPECです。だから、われわれはこいつらが許せない！

G20やAPECで決められようとしていること

は何か？それはTPP(環太平洋パートナーシップ協定)です。TPPとは要するに、資本が成長するために農業までも市場原理に叩き込むということです。こんなことは、100年以上前に一回結論が出ているわけです。資本の論理に任せると農業が破滅し、その結果農民が立ち上がり、立ち上がった農民が労働者と一緒に闘争し、結果として社会の生産を担う二大階層がともに立ち上がる。これが何を意味するか？それを恐れたからこそ、帝国主義は農業に高関税をかけて保護をするという政策をとらざるを得なかった。こういう側面があるわけです。今、もう一度これをやろうとしている。それでいったい何が起きるのかということを彼らは理解しているのか？その現実の一つがここにあります。三里塚闘争を見てほしい。動労千葉と三里塚農民の労農連帯が今の資本の世界戦略、ハブ空港をめぐるあの醜い争いをどれだけ破産させているのか。労働者と農民の同盟がどれほどの可能性を持つのか。ざまあみろと言いたいし、やれるものならやってみろと言いたい。

このTPPと同じような内容は全世界で同時に起きています。私は訪韓闘争に参加しましたが、韓国でのG20粉砕闘争の大きなスローガンは「FTA(自由貿易協定)反対！」で





14日のデモ解散地 = J R 桜木町駅前を解放区に

した。F T AもT P Pと同じく関税を低くするということなんですけれども、これが行われれば資本の論理がまかりとおって労働者と農民が生活を壊される。これに対して怒って民主労総の組合員 1 万人がデモをし怒りを叩きつけている。それほど怒りがこの世界にある。

でもみなさん、ここでわれわれは一つ注意しなければならない。韓国でも一部の指導者がこのF T Aに対する怒り、資本の論理に対する労働者・農民・漁民の怒りを、「韓国に対して不利な協定をアメリカが強引に結ぼうとしている」という怒りにねじ曲げようとしている。民主労総ソウル地域本部は英雄的に闘ったけれども、そういう指導者が一部にいることは一つの確かな潮流です。これは世界的にもそうです。日本でもそうです。連合や共産党もそうですし、特に田母神。これはまさに、資本の論理に対する怒りをすべて国家主義・民族主義に流し込んで、国民を動員し戦争をやらせる。そして資本の危機を突破する。こういう動きにほかなりません。これが世界中で始まっている。

今こそ、「労働者に国境はない!」と言い切れる勢力の登場が求められています。単純に考えたってこれはおかしい話です。例えば、かまぼこ工場で働いている中国人労働者とファミマで働いている青年労働者。この 2 人が昨日までお隣さん同士で仲が良かったのに、尖閣諸島や海底資源の話で物を取り合って醜い争いを始める。こんなことを助長して、人間と人間を対立させる。こういうことをやろうとしているやつらが、このA P E Cに来ています。あらためて怒りがわいてきます。

われわれの結論は、われわれ自身の勢力、「労働者に国境はない」と言いきれぬわれわれの勢力を強化・拡大することです。みなさん! 今日のA P E C 粉碎闘争を通して、国鉄解雇撤回闘争を通して、そしてこれが一番きついことですけれども、自らのキャンパス・職場で団結を強化・拡大すること、その総結集として来年の11月集会に 1 万人を集めきること。これがわれわれの結論だと思います。最後に一つだけ私のキャンパスの話をしめますけれども、わが法政大学でもついに 1 年生が立ち上がり始めています。暴処法弾圧をのりこえて、あの監獄大学から今ここに 1 年生が 2 人来ているし、昨日の集会のわが法政大学の 1 年生の発言と勇姿を見てほしい。みなさん! とともに団結し連帯して闘いま

しょう! 腐ったやつらを吹き飛ばす闘いを、今日は一緒にやりましょう!

田中康宏・動労千葉委員長の特別報告 (14日の集会にて)

11・7 労働者から訪韓闘争まで、全国の仲間たちが困難な状況の中から力を結集してくださったことに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。動労千葉は小さな力ですけれども、みなさんの支援と力に応え、この時代をうち破るためにこれからも全力を尽くして闘うことを誓います。

私は今年の11月集会は、これまでの中でも大きく画期的に違う成果をかちとったと確信をしています。振り返ってみれば、国鉄1047名闘争に加えられた「政治解決」というのは、国鉄労働運動だけではなくて日本労働運動全体の火を消すような大反動でした。だから私たちは、これに全力を尽くして立ち向かおうと決意しました。それから半年間、全国の仲間たちがこの闘争のもとに総決起をしてくれました。闘いは困難だったと思います。職場から地域から、全体が「24年間続いたこの闘いもダメだったのか」、こういう状況の中から立ち上がりました。それで結集した5900名です。私たちはこの攻撃に負けただけのものをつくった。土台と基礎と出発点をつくった。これは日本の労働運動の歴史から見ても画期的な第一歩を記した、そういう11月集会だったと私は確信を持ちました。だからもう一回、みなさんに心の底からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



それと、この半年間の闘いがつくったものは、「われわれはどの道を進めばいいのか」「どの方向に向かってみんなの気持ちを一つにすればいいのか」「いま火花を散らしてぶつかり合っている焦点は何なのか」、そうした闘いの方向を限りなく鮮明にすることができたということです。なぜ、私たちは24年前の国鉄分割・民営化問題にこだわったのか。ここを突き破れなかったら、私たちは前進できないからです。ここを突き破れなかったら、私たちの敵を倒すことはできないからです。そういう方向性を明確にできたという意味では、これまでの11月集会とは画然と違う、すばらしい地平を開いたと私は確信をしました。道は明確です。この道を進むことです。そして、そのために必要なのは何なのかってことです。11月集会のあの場の決意、怒り、熱い気持ち、これをあの日比谷野音での特別なものには絶対しないことです。あの思いを全国の職場、全国の地域に...。困難でしょう。だけど、すべての職場・地域・学園に日常化する。これが私たちの仕事です。



組織することです。私たちの力はたった一つ、労働者の力です。労働者を組織し団結を組織する。不屈の団結を組織する。敵が振りまく、労働者を取り込むための国家主義とか排外主義とかペテンに満ちた、労働者の団結を破壊し、労働者の力をなきものにしようなものに、困難であろうと対決することです。だから、組織することです。それができれば、私たちはどんな攻撃にも決してうち砕かれることはありません。私は11月集会と訪韓闘争を通してそのことを確信しました。

われわれの力はまだ小さい。小さいけれども、私たちが提起し訴えていることには、普遍的な、絶対の、間違いのない正しい道があります。そのことを日本のみなさんから教えられ、韓国の民主労総の同志から教えられ、アメリカのドイツのブラジルの同志から教えられました。これは、私たちが勝手に作りあげたものではないということです。一人ひとりの労働者の持つ力が結集して、あの集会が作りあげられたってことです。私たちがやったことは、どんなことがあっても現在の困難から逃げなかったってことです。逃げなかったら、そこには労働者が持つすべての力が結集して、ぼくらに力を与えたってことです。これが11月集会と訪韓闘争、この春からの闘いの中で示されました。この道を信じて進みましょう！

そしてAPECです。本当に許せない！ 今この地球上で何十億の人間が飢え、苦しんでるんですか？ つい数日前、新聞に載っていました。日本の上場企業800社の利益はリーマン・ショック前を超えたっていうんですよ。誰が金を儲けていて、誰が貧困に叩き落され、誰が非正規職に突き落とされ、誰が明日をも見えない状況に置かれているのか。そこで開かれるこの会議とは何なのか。もっと労働者を貧困に突き落とすってことです。もっと労働者を非正規職に突き落とすって会議じゃないですか！ 生き残るのは誰なのか。労働者を苦しめ、突き落としてきた支配階級です。

それともう一つ、APECは戦争を引き起こそうっていう会議です。戦争に駆り出されるのは誰なのか。戦争によってもうけるのは誰なのか。国家とは何なのか。国家が生き延びて労働者や農民は死ねというのか。つまりこれは、もう資本主義体制が終わりだってことです。しかももうこれは、本来二度と立ち上がることをできない、もう最後の最

後の最後の危機だってことです。だから私たちはこの状況を、「われわれにとってチャンスだ」「いよいよ労働者が胸を張って誇り高い労働者として団結を取り戻して登場するときに来た」と、そういう時代にぼくらは生きてる。生きてることは、これほど素晴らしいことはない。そういうふうはこの時代を見たいと思います。

だから、すべては今われわれがこの時代に、今日何を決意し、今日明日から何をするかにすべてはかかっているってことです。もう一回、日本帝国主義が戦争するってことを許すのか。公務員制度改革なんて言って数百万の労働者、その影響は数千万に及ぶでしょうが、非正規職に突き落とす。もう現実にそれは、公に言われて始まっていることを許すのかってことです。それはすべてわれわれにかかっている。今、われわれが何をするにかかっている。そう考えれば、この時代は私たちにとってすべての可能性をはらんだ時代なんだと思います。

私たちはこのAPEC会議に、そして韓国のG20会議に絶対反対をする、そういう立場で立ち上がりました。菅政権を打倒しましょう！ 動労千葉はそのために、自らの国鉄の戦線で新しい闘いに立ち上がります。この闘いはもちろん、1047名解雇撤回闘争をつぶして日本の労働運動をつぶすこの攻撃に反撃を開始したこの土台から、国鉄全国運動を全国津々浦々に築き上げるために一から労働運動をつくりなおす決意でこの運動を全国から起こす。そして新自由主義攻撃の核心的な攻撃である業務の全面外注化をうち破って、新自由主義攻撃が始まってから二十数年間、日本の労働運動が立ち向かえなかった外注化阻止の闘いを、「闘えば勝てるんだ」という展望をJRだけじゃなくて日本の労働者に自らの闘いをもって示すことだと私は考えます。

この年末から攻撃は再び大きな焦点を迎えます。全支部には、いついかなるときでもストライキに立ち上がれる態勢をとってほしいと指令しています。再び決戦です。戦争への道を許さないために、そして労働者が誇り高く立ち上がるために、この2010年一年をかけて作りあげたわれわれの闘いの路線と方向性のもとに心をついて立ち上がりをしましょう！！



メディアからの取材を受ける倉岡・全学連副委員長(法大)

法政大学の1年生の決意表明 (13日の集会にて)

法大の1年生です。11月集会は私たち新入生が先頭で引っ張って、今までにない数の法大生の獲得を実現しました。組織化していく過程でキャンパスのいろんな人と話したんですけど、みんな何かしら怒りを持っているんですよ。でも「どこにぶついたらいいかわからない」だとか、私たちが拡声器を使っているのを見て「『マナー』だとか『公共』だとかがあるじゃないか」とか。でも、誰のための「マナー」なのか、誰のための「公共」かって突き詰めていったら、みんな「いや自分たちのじゃないな」っていうんです。それでも、運動するには勇気がいるから入ってこれない。でも、今年は例年よりは大量の人が集まって来てくれています。今は、11月集会～A P E Cの流れで、新入生も自分以外にもいっぱい出てきているんです。

11月集会で思ったことがありまして。やっぱりこの新自由主義だとか合理化っていうある種の幻想にもとづいた世界中の傾向は、労働者・学生の問題を一つに集約してくれましたし、「自分たちの怒りはどこへ行っても同じなんだ」ってことをつかみました。右翼のデモを吹き飛ばしたっていうのは、やっぱり今、学生のエネルギーが向かうのは11・7しかない、労働者のエネルギーが向かうところは11・7しか

ない、人間のエネルギーが向かうところは11・7しかないからだと思うんです。今、イギリスとかフランスとか中国とかすごいデモが起きているじゃないですか。日本でも絶対起こせるって思うんです。日本人の気質がどうだとか、日本の伝統がどうだとか、日本の公共感がどうだとか、そんなものはこれから先の時代にまったく通用しないと思うんです。だから、われわれの運動には絶対に展望があると思うんです。だから、今日のA P E C粉砕闘争でそれを見せてやろうじゃないですか！日米安保強化だとか、そんなふざけた分断を絶対にうち破ろうじゃないですか！

その上で2011年、来年が勝負だと思うんです。法大では、倉岡さんへの追加処分を阻止して来年度にキャンパスに入れるかどうか大きな争点になっています。飲酒規制も学祭後に強化されました。結局、学祭実だとか「学生の味方だ」という面をしている連中がのんだのは、ただの規制強化と分断です。今年の学祭にはガードマンがいて、われわれは入れませんでした。これを学祭実「自治」と言っているんですよ！こういう時代です。労働組合も学生組織も全然闘いません。われわれが新しい運動を見せてやるしかない時代です。だから2011年に向けて、今日の闘争を足がかりとして、全力で邁進します。ぜひ、倉岡さんが学内に入れるように応援をお願いします！

【2】訪韓闘争～G20粉砕闘争の高揚



【3】11・7～訪韓～A P E C 粉砕闘争が 切り開いた地平を全面的な組織建設へ

11・7労働者集会と訪韓闘争、そしてA P E C粉砕闘争は、現下の世界大恐慌および「戦争大失業」攻撃と対決し、菅・民主体制打倒を勝ちとる闘いとして闘われた。

ここでつかみ取った地平を、第一に、ただちに来年11月集会1万人結集を実現していくための、壮大な2011年決戦の爆発として発展させよう。

第二に、11月参加者にもそうでない学友にも、全力で全学連組織拡大の12月決戦オルグで勝負することだ。

第三に、「反戦闘争×教育の民営化粉砕闘争」のさらなる発展をかちとっていくことだ。11月28日の沖縄県知事選挙をはじめ激動情勢に立ち遅れることなく切り込んでいこう。

第四に、倉岡処分阻止と学祭規制粉砕を軸にした法大決戦を、文化連盟と1年生を先頭に爆発させていこう。

第五に、11～12月決戦のすべて総括軸は、マルクス主義による組織建設(組織拡大)であり全学連指導部建設だ。

全学連運動復権の2011年決戦に向け、ともに頑張ろう!!